様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 １２ 日現在

機関番号：１２１０２
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2016～2018
課題番号：１６Ｋ１６８１７

研究課題名（和文）中国語における重畳形式の基盤としての重複表現

研究課題名（英文）Repetition as the Basis of Reduptication in Chinese

研究代表者
池田　晋（IKEDA, Susumu）

筑波大学・人文社会系・助教

研究者番号：４０５６８６８０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,100,000円

研究成果の概要（和文）：中国語は同一要素の繰り返しを多用する言語である。従来、文法研究の対象としては「重畳形式」と呼ばれる形態変化ばかりが注目を浴びてきたが、それと類似の形式的・意味的特徴を持つ重複表現については、十分な関心が注がれてこなかった。本研究では、そうした問題意識のもと、いくつかの重複表現についてケーススタディをおこない、意味や機能を詳しく記述するとともに、それらの構造の中で重複という手法が用いられる原因を考察した。また、これらの表現と重畳形式が意味や機能の面でどのように関連しているかについても分析をおこなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究ではいくつかの重複表現について分析をおこない、各構造の用法や意味を記述するとともに、同一要素の繰り返しが個々の構造においてどのような機能を担っているかを明らかにした。同一要素の繰り返しが全称や多様性の解釈を生み出すことや情報構造に影響を及ぼすことを明らかにした点は、これまでの研究では指摘されてこなかったことであり、本研究の独創的な知見である。また、本研究の成果は教学の面、とくに中級以上の中国語教育の現場での応用が期待できる。

研究成果の概要（英文）：Chinese is the language that shows a prefererece for using reduplication and repetition. So far, morphorogical reduplication forms have often been noted as objects of grammar reseach, but repetition structures have not been studied so much despite having similar features to reduplication forms to some extent. So in this study, we took up some repetition structures as reseach subjects, and described those meanings and functions in detail. In addition we considered the reason why the means of repetition are used in those structures. We also analyzed how those structures are related with reduplication forms in terms of function.

研究分野：中国語学

キーワード：重複表現　重畳形式　構文　複文

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

「重畳形式」は中国語に特徴的な表現の 1 つであり、これまでに個々の形式について様々な言語事実が明らかにされてきた。しかしその一方、従来の研究では厳密な形式的根拠によって重畳形式を定義してきたために、現実には重畳形式と見なすべき形式や、関連する表現形式が考察の対象から漏れてしまうという事例が散見され、結果として、重畳形式およびその関連形式の全体のありようが局所的にしか明らかにされないという問題を引き起こしていた。

一部の先行研究が指摘するように、多くの重畳形式はもともとは同一要素を何らかの形で繰り返す「重複表現」に由来し、それが文法化を経て現在のような形態変化として定着したものにほかならない。また、共時的側面に関しても、重畳形式と重複表現の機能的類似性を指摘する論考が少数ながら存在する。これらのことから分かるように、重畳形式を体系的に理解し整理するためには、これまでのように狭い形式的定義に固執することは得策ではなく、機能的・形式的に一定の関連性を持つ「重複表現」をも視野に入れ、より広い視点から重畳形式およびそれに準ずる形式に対する分析を深めることが重要となる。従来の研究では、重畳形式と重複表現との連続性に十分な関心が注がれていたとは言い難く、さらに言えば、中国語が重畳や重複などのような形式的な繰り返しを多用すること自体にそもそもどのような動機づけがあるのか、といった問題についても議論の俎上に載せられることはなかった。いずれにせよ、より広範な視野に立って、重畳形式と重複表現とを均しく観察し、議論を深めていくことが喫緊の課題として残されていた。

２．研究の目的

１で述べたような背景をふまえ、本研究ではまず、個別の重複表現（相互構文、疑問詞連鎖構文、“A 就 A 在 X”構造）に着目し、それらの構造的特徴や意味的特徴を詳細に記述し、重複という手法が用いられる根本的な動機や重畳形式との関連性の有無を究明することを目指した。より具体的には、(i)2 つの繰り返し要素の文中で現れる位置や文中における働きが、重複表現全体の意味や機能にどのような違いをもたらすか、(ii)個々の重複表現形式において、同一要素の繰り返しが文法的に果たす役割には相互に何らかの共通性が見られるか、あるいは重畳形式との共通性が見られるか、(iii)重複表現が重畳形式に文法化していく条件としてどのような点が考えられるか、といった点を解明していくことが本研究の主たる目的である。

３．研究の方法

中国語は同一要素の繰り返しを多用する言語であり、本研究の言う重複表現に含まれる構造は莫大な数が存在すると言ってよい。本研究では、その中で相互構文、疑問詞連鎖構文、“A 就 A 在 X”構造を分析の対象としてとりあげた。相互構文は疑問詞“誰”を繰り返す構文で、2 つの疑問詞はそれぞれ同一節内の主語位置と目的語位置に出現する。疑問詞連鎖構文も同じく疑問詞を繰り返す形式であるが、必ず複文の形式を取り、2 つの疑問詞は前節と後節にそれぞれ 1 つずつ生起する。“A 就 A 在 X”構造は形容詞（または動詞）を繰り返す形式で、1 つ目の形容詞が主題（topic）として文頭に出現し、2 つ目の形容詞が述題（comment）として述語内に出現する。このように、2 つの繰り返し要素の出現位置や機能がそれぞれ異なる重複表現 3 つをモデルケースとして選び、２で示した目的を解明しようと試みた。

４．研究成果

(1) 相互構文とは、同一節内の主語と目的語の位置に同一の疑問詞“誰”が生起する“誰也不認識誰。（お互いに面識がない。）”のような文を指す。2 つの疑問詞はそれぞれ別の対象を指すとされ、構文全体では「相互関係」の意味を表す。意味やこの構文について用法の記述をおこなったうえで、更に「相互関係」の意味が生じる要因についても考察した。

その結果、まずこの構文の構造的特徴として、必ず副詞“也（も）”か“都（すべて）”と共起すること、2 つの疑問詞のうち後者は動詞の目的語のほか前置詞の目的語や目的語句内の連体修飾語として生起することもあるが、前者は必ず単独で主語として生起すること、この構文に用いられる動詞は単方向的な働きかけを表すことができるものに限られること、などが明らかになった。また、意味的特徴として、この構文の表す相互関係はあくまでも話者の見立てによる「仮想的」なものにすぎず、已然の事実としての相互行為はこの構文によって表すことができないことを指摘した。これらの特徴は、いずれもこの構文に相互関係の意味が生じるメカニズムと密接に関わっている。

「相互関係」の意味が発生する原因としては、“也”や“都”による全称解釈が生じるメカニズムが深く関わっていることが分かった。例えば、“誰也没来。（誰も来なかった。）”という全称表現では、「A さんが来た」「B さんが来た」「C さんが来た」…などという可能性がある中で、そのうちのたった「1 つ」の事態さえ〈も〉成立しなかったと述べることで、「全員来なかった」という全称解釈の意味が生まれるのである。これと同じメカニズムを相互構文にも応用することができる。“誰也不看誰。（お互いに相手を見ない）。”を例にとれば、以下のような推論が行われていることになる。

参与者＝A、B、C、D；→＝看

*A→B、*A→C、*A→D

*B→A、*B→C、*B→D

*C→A、*C→B、*C→D
*D→A、*D→B、*D→C

仮に ABCD という 4 人の人物がこの事態に関わっているとすると、これらの人物の間で“看（見る）”という単方向的行為が起こる可能性は、上記の 12 通りがある。“也”の作用によって、この文は、12 通りの可能性のうちのいずれも成立しないという全称解釈を表すことになるが、その全称解釈には「A が BCD を見ること」の否定と、「BCD が A を見ること」の否定が含まれることになる。事態の参与者が「お互いにお互いを見ない」という相互関係の意味はこの全称解釈の内部において成立しているというわけである。

全称解釈を受ける対象は通常、副詞“也”“都”の前方にあるものに限られる。それにもかかわらずこの構文においては、SVO 構造全体が全称解釈を受けているが、それは同一の疑問詞を主語と目的語の両方に配するという重複形式が SVO を不可分の単位と見なすことに大きく寄与しているからである。重複表現の 1 つの重要な機能として、この点は見逃してはならない。

(2) 同一の疑問詞が複文の前節と後節に 1 つずつ生起する、いわゆる「疑問詞連鎖構文」と呼ばれる構文について考察をおこなった。この構文では前後 2 つの疑問詞は同一の対象を指すとされ、例えば“誰先回家誰作飯。（誰かが先に家に帰ればその誰かがご飯を作る。）”の 2 つの“誰”には同一人物が当てはめられることになる。

考察の結果、この構文は独自の意味関係を表す複文として、他の類義の複文と関連付けて捉えられるべきものであるという見解に達した。類似の意味を表す複文としては、例えば無条件複文“無論～都…（たとえ～であろうと…）”がある。この複文の場合、“無論誰来，我都歓迎。（誰が来ても歓迎する。）”のように、前節に疑問詞が含まれていて、その部分には任意の値が代入できることが示されるが（疑問詞は変項である）、後節には変項が含まれていない。そのため、無条件複文は前節の疑問詞に何が代入されるかにかかわらず、均しく同一の帰結が導かれることを表す。これに対し、疑問詞連鎖構文の場合は、前節と後節の双方に変項が含まれるため、前節の内容に応じて後節の帰結も変化するところにその特徴がある。簡潔に言えば、無条件複文の前後節が「多対一」の関係にあるのに対し、疑問詞連鎖構文の前後節は「多対多」の関係にあるということである。疑問詞連鎖構文は「事態実現の在り方の多様性」を表す複文にほかならない。この構文の各種用法は「多対多の関係」「多様性」の意味をもってすべて合理的に説明することが可能である。

(3) 中国語の諺や格言の中で、複文形式をとり、前後に同一の語を繰り返すものは枚挙に暇がない。例を挙げれば、“説曹操，曹操就到。（曹操の話をすれば曹操が来る⇒噂をすれば影）”、“与人方便，自己方便。（他人に便宜を図ってやれば、自分に返ってくる⇒情けは人の為ならず）”、“不経一事，不長一智。（1 つのことを経験してはじめて、その 1 つのことがわかるようになる。）”など。疑問詞連鎖構文はときに韻文風のリズミカルな形式をとり、格言めいた意味を表す場合がある。そうした場合、この構文は形式的にも意味的にも、以上に挙げたような諺・格言に限りなく接近しているようにも見える。

確かに疑問詞連鎖構文には、場所や時代を超えて通用するある種の真理や法則を表すことができるという側面も認められる。しかし、変項である疑問詞が用いられているため、仮の法則という意味が強く、話し手自身の個人的見解の域を出るものではない。この点で、広く万人に共有・認識された公共の真理・法則を表す諺・格言とは根本的に異なっている。実際に疑問詞連鎖構文を起源として諺に発展したものは、ごく少数しか見られない。

(4) “A 就 A 在 X”構造について、類似の意味を表す“A 在 X”構造との対照を切り口として、この構造の意味的特徴について、とりわけ当該構造の先行研究で課題とされてきた「焦点」の問題について分析をおこなった。まず言語事実に基づき、両構造の X が A にとって不可欠の「内因」の意味を表すこと、両構造の情報構造上の焦点がともに X であることを確認したうえで、両構造の焦点 X の特徴の違いについて考察をおこなった。

考察の結果、“A 就 A 在 X”構造の X は特殊な対比焦点であることが明らかとなった。この構造の X は「ほかでもなくこれ」という排他的限定を受けるものであり、同時に話し手の「A にとって最も重要な内因」という主観的評価も含んでいる。この特殊な対比焦点に関しては、日本語における特立のとりたて詞「こそ」との間に一定の機能的な類似性が観察されることから、これを「特立焦点（superlative focus）」と名付けた。一方、“A 在 X”の X は自然焦点または単なる対比焦点であり、主観的評価性を含むものではない。両構造の意味や文法上の違いは、この焦点の違いから合理的に説明することができることを示した。

また、“A 就 A 在 X”において「特立焦点」という特徴が生じるメカニズムについても分析をおこない、主題 A に対する述題として“就 A 在 X”を用いるという、トートロジー的な構造がそれに深く関わっていることを突き止めた。この構造の表す内容は「A はまさしく〈A 在 X〉である」ということであり、これは即ち「X は A にとって不可分の要素である」と言っているに等しい。ここにおいて「A にとって最も重要な内因」という主観的評価が生み出されているのである。

この構造では、2 つの要素の繰り返しがトートロジー的な言い回しを構成し、文の情報構造に多大な影響を与えていると言える。

(5) 以上 3 つのモデルケースの考察から、重複表現が様々な機能を担いうることが分かった。さらに注目すべき点として、これらの構造のうちの少なくとも 1 つが重畳形式へ発展する兆しを見せているという事実が指摘できる。

近年の中国語では、疑問詞連鎖構文を土台とした“愛咋咋（どうにでもやりたいようにしろ）”“愛誰誰（だれでも好きなようにしろ）”といった表現が生まれている。これはもともとは“愛怎麼作就怎麼作。（どのようにやりたいというのがあれば、そのようにやれ＝やりたいようにやれ）”のような表現であったのが、動詞や副詞といった要素が削ぎ落とされていき、最終的に助動詞“愛（～したい）”と 2 つの疑問詞（“咋”は“怎麼”の口語形）だけが残ったものである。現時点では疑問詞連鎖構文の短縮形という理解がなお優勢であるが、将来的に「誰でもよい」「どうでもよい」という投げやりな態度を表明する際に用いる疑問詞の重畳形式という理解が優勢になる可能性は否定できない。

なお、疑問詞連鎖構文の表す「多様性」とは、「複数」の事態実現可能性に推論を巡らせることを指すものである。重畳形式の根源的意味の 1 つとして複数性・多量性といったことがしばしば指摘されるが、これに近い意味を持つ疑問詞連鎖構文が重畳形式への変化の兆しを見せているという事実は非常に示唆的であるように思われる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 3 件）

① 佐々木勲人・千葉謙悟・野原将揮・戸内俊介・石崎博志・池田晋・八木堅二・鈴木慶夏、学界展望（語学）、『中国語学』、265 号、113-130 頁、査読無、2018 年

② 池田晋、多様性の複文―疑問詞連鎖構文の形式と意味―、『島津幸子教授追悼記念論集　ことばとそのひろがり(6)』、立命館大学法学研究会、59-83 頁、査読無、2018 年

③ 池田晋、AABB 型動詞重畳式的構詞和語義、『中国語文法研究』、2016 年号、中国語文法研究会、34-48 頁、査読有、2016 年

〔学会発表〕（計 7 件）

① 池田晋、“A 就 A 在 X”の語用論的機能、第 42 回中国語文法研究会、2019 年 3 月 24-26 日、ピアザ淡海（滋賀県大津市）

② 池田晋、「この＋人名」と“這個＋人名”の現場指示用法、日本語日本文化フォーラム 2019、2019 年 3 月 3 日、上海、中国

③ 池田晋、拷貝式話題結構“A 就 A 在 X”語義功能浅析、第九届漢語語法専題国際学術研討会、2018 年 10 月 12-15 日、武漢、中国

④ 池田晋、同一性トピック構造“A 就 A 在”の意味機能、第 38 回中国語文法研究会、2018 年 3 月 24-26 日、舞阪協働センター（静岡県浜松市）

⑤ 池田晋、仮想的相互関係を表す疑問詞呼応構文について、第 35 回中国語文法研究会、2017 年 6 月 3 日、筑波大学東京キャンパス（東京都文京区）

⑥ 池田晋、何のための疑問詞？―疑問詞連鎖構文の形式と意味、日本中国語学会第 66 回全国大会、2016 年 11 月 12-13 日、立命館アジア太平洋大学（大分県別府市）

⑦ 池田晋、表示一種交互関係的“誰”字呼応句式、第七届現代漢語虚詞研究与対外漢語教学学術研討会、2016 年 7 月 22-24 日、昆山、中国

〔図書〕（計 1 件）

① 池田晋、仮想的相互関係を表す疑問詞呼応構文について、『楊凱栄教授還暦記念論文集中日言語研究論叢』、楊凱栄教授還暦記念論文集編集委員会、501-521 頁、査読有、2017 年

６．研究組織

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。